

2022 年度 全国競技運営責任者会議 報告

2023. 2. 13 オンライン

《2023 年度 競技規則の修改正について（概要）》

2023 年度は、直接ジャッジ（判定）に関係する内容などの修改正はほとんど行われず、条文の整理や文言の修正、解釈や運用の明確化などが主な内容となっている。

★WAによる競技会・記録の大枠の考え方の変更【一般定義、TR1、TR11.1】

- 国際競技会 → ワールドランキングコンペティション (WRk) [一般的に適用される定義]

注) 2023 年度ルールブックの本文の表記は「国際競技会」のまま

→ ワールドランキングコンペティションに読み替えて解釈

- ワールドランキングコンペティションは、「CR+TR+WA が定める諸規則」に従って行わなければならない
- ワールドランキングコンペティションに該当しない競技会であっても、「CR+TR+WA が定める諸規則」を適用して実施すべき【TR1】
- ワールドランキングコンペティションで達成された記録のみが有効【TR11.1】

➢ワールドランキングコンペティション対象競技会での記録でなければ、世界記録、ワールドランキング、世界選手権等の大会の参加資格取得に必要な記録（参加標準記録）の対象とならない。

＜参考＞

WRk : World Ranking の略

ワールドランキングコンペティション : WRk 対象競技会

- 【TR11.1 国内】

本連盟規則に基づいて準備された競技場で、かつ本連盟が認めた用器具を競技者が使った時でなければ有効としない ← 変更なし

➢仮にワールドランキングコンペティション対象外の国内競技会で世界記録が生まれたら？

日本記録 : 対象

世界記録 : 対象外

★世界記録・日本記録の対象種目の追加【CR32、CR37.10】

- 世界記録

➢対象 : 男子・女子ともに

➢道路競技 : 1 マイル

➢初回認定 : 2023 年 9 月 1 日

➢計時方法 : 写真判定またはトランスポンダー

- 日本記録

➢対象 : 男子・女子ともに

➢道路競技 : 1 マイル

➢初回認定 : 2023 年 12 月 31 日

➢計時方法 : 写真判定またはトランスポンダー

➢備考 : 現時点で「道路 1 マイル」の検定済コースは 2 か所のみ

※写真判定で計時するケースは？

➢競技場発 → 場外 → 競技場着 のコース

- 道路競技 1 マイル 時間計測単位 ← 追加

TR19. 23. 3 [注意] 道路競技の 1 マイルは、次のより長い 0. 01 秒に変換する（切上げる）

TR19. 24. 5 [注意 ii] 道路競技の 1 マイルは、次のより長い 0. 1 秒に変換する（切上げる）

* 道路競技でありながら、他の道路競技と時間の計測単位が異なる

➢写真判定 1/100 秒単位 【TR19. 23. 3 [注意]】

➢トランスポンダー 1/10 秒単位 【TR19. 24. 5 [注意 ii]】

★科学計測装置（EDM/VDM）の正常動作（計測値）の確認【CR28】

●現状

- ・競技開始前のみ（終了後は不要）
- ・鋼鉄製巻尺と科学計測装置の計測値の一致を確認
- ・チェックポイントにゴルフのティー等でマークすることを推奨
- ・「科学計測装置確認書」（開始前チェックのみ）



●変更後

- ・競技開始前 + 競技終了後 の両方確認
- ・開始前チェックは、鋼鉄製巻尺を使用して計測
終了後チェックは、マークしたティー等の距離が開始前計測値と同じであることを確認
(鋼鉄製巻尺は使用しない)
- ・「科学計測装置確認書」（変更：開始前 + 終了後 チェック）

※毎年、科学計測装置（光波）でのトラブルの事例報告がある

より重要なのは、基本動作の徹底

- 正しく設置（平坦で地面が安定した場所、三脚のズレ防止）
- 一度セットした計測装置は動かさない（操作盤以外に触れない）
- 着地点（落下点）側の痕跡の確実なチェック
 - ・着地場所の整備
 - ・2名（複数名）での指差確認
- バックアップ用の鋼鉄製巻尺の用意

★競技用靴に関する規程の再確認【TR5. 2】

●規程そのものに変更なし

●ルールブック本文に2024年11月1日から適用の靴底厚も記載

➢影響があるのは

- ・トラック : 800m以上、障害物競走 25 mm → 20 mm
- ・フィールド : 三段跳 25 mm → 20 mm
- ・クロスカントリー : スパイク 25 mm → 20 mm

2023は現行ルール

2024年11月1日から適用の靴底厚

種 目	靴底の最大の厚さ	要 件 ・ 備 考
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズ または ノンスパイクシューズ	・リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 ・競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズ または ノンスパイクシューズ	全跳躍種目で本規定10.3および10.4に記載の通り、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。 (前足の中心は、靴の内部の長さの75%にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの12%にある靴の中心点)
道路競技（競走、競歩）	40mm	
クロスカントリー	スパイクシューズ : 20mm または ノンスパイクシューズ : 40mm	競技者はスパイクシューズまたはノン・スパイクシューズ（ロードシューズなど）を履くことができる。スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは20mmを超えてはならない。ノン・スパイクシューズを履く場合、靴底の最大の厚さは40mmを超えてはならない。
マウンテンレースとトレイルレース	制限なし	

●WA規則の一部適用除外（2022年4月14日付 通知）

➢適用競技会

- ・日本中体連陸上競技専門部とその下部組織が主催・共催する競技会
- ・全国高体連陸上競技専門部とその下部組織が主催・共催する競技会
- ・日本学生陸上競技連合とその下部組織が主催する競技会
- ・加盟団体の主催する競技会で主催者が適当と判断した競技会

➤除外対象

- ・フィールド競技用靴における靴底厚について適用除外
- *フィールド競技用靴以外の靴については、靴底規程を遵守

➤期間

2024 年 10 月 31 日まで

➤記録の取り扱い

- ・国内のみで通用する記録
- ・WAへの申請は行わず、国際競技会への参加資格

★アスリートビブス（ビブス）の文字や数字の大きさ【TR5〔国内〕】

- ビブスの大きさ：24cm 以内×16cm 以内 ← 変更なし
- 広告の有無（上下）によって文字や数字を記入できる高さが異なることから、詳細は（場合分け等）は広告規程にて明示



【C7.4 8 アスリートビブス】 ← 追記修正

8.5〔国内〕

- 上部の広告は、高さ 6cm 以内とする。
- 下部の広告や大会名等は、高さ 4cm 以内とする。
- 広告を表示しない場合は、空いている余白を競技者識別表示に使用してもよい。

6cm	広告/スポンサー名
6cm	数字や競技者名 等
4cm	広告/スポンサー名、大会名 等

★機械的補助用具規程【TR6.3.4】

- 義足等を使用する競技者が一般競技者と一緒にWA規則（日本陸連規則）で競技を行う場合には、義足等の使用に関するWAの認可（承認）が必要。
- ※同一レースの場合に適用

★フィールド競技の試技時間【TR25.17】

◎2022 年 3 月 30 日付 通知

『疑義』高さの跳躍競技において、優勝が決まって 1 人になった競技者が連続試技にも該当した場合、1 人の試技時間あるいは連続試技の試技時間のどちらを与えるべきか？

『結論』競技者にとって不利にならない試技時間を与えるべき。（WA 見解）

→ 1 人の試技時間を与える



- 「連続試技」の表現変更 ← 明確化
- ＜変更前＞・・・残っている競技者数に関係なく適用し・・・
- ＜変更後＞・・・残っている競技者数が 2 名以上の時に適用し・・・

★「やり」に関する表記の修正【TR38.5～38.13】

- 表現の統一、明確化、他の記載部分との整合 → 内容に変更なし
- 例) 握り → グリップ、穂先 → 頭部・先端部

★リレー種目におけるユニフォームの解釈について【TR5.1〔国内〕】

迷惑撮影（盗撮）に対し、選手個人がユニフォームの形状を選択したいと考えていることが起因

* ルールブック

『全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する。』

*ハンドブック

『全国的な競技会でのリレー競走においては、チームの出場者は、ランナーの誤認をなくすために、同一のユニフォームを着用する（短パン、スパッツの違い等は許容範囲）』

※『同一のユニフォーム』とは（解釈）

「同じチームであることがわかれば」、ユニフォームの形状は問わない。

◆セパレートとランニングシャツは許容範囲◆

*ユニフォームの形状を統一する必要はない。ただし、デザイン、配色は統一すること。

—参考—

、形状は関係ない

WRk対象競技会の運営

●100m～800m 写真判定が必須

●計測機器

・WAの認定を受けている機器の使用

*透過式計測器の使用可（走幅跳・三段跳）

→ただし、エリア記録（アジア記録）以上が出た場合は、鋼鉄製巻尺での再計測・確認が必要

*SISの使用は必須ではない

→ただし、エリア記録（アジア記録）以上が出た場合、短距離種目は認定されない

*機械式風速計の使用可

→ただし、エリア記録（アジア記録）以上が出た場合、認定されない

*写真判定機は競技開始前にゼロコントロールテストの実施

*科学計測装置は競技開始前・終了後に確認が必要

、鋼尺は不要、光波のみ

・フィールド競技は全試技の計測が必要

・走幅跳、三段跳は粘土板あるいはビデオによる踏切判定

●WA規則通りに実施されたかを保証するために

➢近隣地域や主催者とは無関係の客観的立場の公認審判員を招聘してWA規則通りに実施されていることを監督し署名する（2023年度はJTOまたはA級以上で審判長経験者）

*2024年度以降WAの審判制度が変更になる見通し。それに合わせてWAの審判資格取得者（Bronze Referee）がWRk対象競技会で審判長などを務めることになる。

●記録は競技会終了後24時間以内にWAに報告（電子申請）

※WA規則通りに実施されていない競技会をWRk競技会として報告した場合、日本全体として非常に重いペナルティーを受ける（監視対象国に指定、日本選手権、CT大会など以外はWRk競技会に申請不可） ⇔ 記録の信憑性

施設用器具委員会より

●施設用器具委員会関係の規則の改正

・競技規則

①CR32、CR37.10 世界記録・日本記録 → 道路競技に「1マイル」の追加

②TR23.4 障害物競走 → 距離の訂正

最初の1周に入ってから第1障害物までの距離 30m720

③TR38 やり投 → 38.7、38.9、38.10 のやりの部材の和訳修正

・陸上競技場公認に関する細則

①縁石のない競技場のマーキング 第19条（第4種陸上競技場の特例）

②別表1 全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表

③別表2 用器具一覧

・長距離競走路ならびに競歩路公認に関する細則

①1マイルの追加

●秤の調整

重さは緯度によって影響を受ける → 投てき物を測る秤は必ず10kgの確認をする

●投てき用囲いの安全確保

従来型は、隙間ができやすいので、囲いとパネルの間に補助ネットを張るなどの対応が必要